

<2012年度愛知県修学旅行研究会開催報告>

日 時:2012年11月15日(木)

場 所:名古屋市都市センター会議室

発表校:一宮市立千秋中学校

テーマ:「急きょ目的地を変更した修学旅行を終えて～震災から学ぶ～」

【当初の計画】

5月25日 一宮 → 名古屋 → 房総半島(岩井海岸)

5月26日 房総半島 → 東京ディズニーランド → 浦安

5月27日 浦安 → 東京都内 → 名古屋 → 一宮

【変更後の日程】

8月28日 一宮 → 神戸(震災学習) → 大阪

8月29日 大阪市内

8月30日 大阪(学級別活動) → 一宮

【変更に伴う課題とその対応】

- 1 生徒・保護者・地域の不安の解消 --- 説明会の実施
- 2 事前準備不足 --- 下見のやり直しと旅行社との連携
- 3 熱中症対策 --- 健康チェックと講習会 対策グッズ
- 4 関西へ行く意義 --- 1日毎のテーマの設定

【参加者からの意見】

- ・ 事前準備の時間が短く、日程変更が大変だったと思う
- ・ 生徒の目を防災に向けることができたことは成果である。
- ・ 緊急避難場所の確保等、学校は危機管理に一層の注意を払う必要がある。
- ・ 3月段階では、計画停電・余震・ホットスポット・飲料水等多くの課題があった。
- ・ 震災によって地域とのつながりが深まったことにも大きな意義がある。

平成 25 年度は、豊田市立松平中学校の事例発表を予定している。

急きよ目的地を変更した修学旅行を終えて

～震災から学ぶ～

一宮市立千秋中学校
校長 高木 浩正

はじめに

本校は、愛知県一宮市の東部に位置し、東には江南市、岩倉市が隣接している。周辺には、田園地帯が広がり、自然豊かな教育環境に恵まれた土地柄である。地域の特徴として、親子三世代で生活している家庭が多く、母校として千秋中学校に愛校心を抱く祖父母・父母世代が多く住んでいる。さらにコミュニティ・スクールも発

足し、学校と地域の結びつきも強くなってきた。

昨年度三年生は五クラス一七四名が在籍した。素直で元気のよい半面、規範意識が低く、時間にルーズな面が見られた。

保護者や地域の方々との協力を得ながら、さまざまな教育活動を活発に行うなかで、生徒は大きな変容を見せ、修学旅行でも中学校生活の最後の年を充実させようがんばっている姿が見られた。



学校風景

本校の修学旅行の位置づけ

三年ほど前の本校は、規範意識が低い生徒が十数人おり、集団での行動ができなかったり、公衆道徳が守れなかったりするなど、自

れていないという問題点が明確になった。

当初の修学旅行の計画

計画を立てる段階では、体験学習や学級及び班活動を中心として次の通りの予定とした。

第一日目

一宮↓名古屋↓房総半島(岩井)

第二日目

房総半島↓東京デイズニールランド↓浦安

第三日目

浦安↓都内(学級別活動)↓名古屋↓一宮

第一日目の房総半島の岩井では、漁村体験(漁船体験、磯遊び、魚釣りなど)を行い、自然とのふれあいを目的として計画した。また、自然を相手にしている仕事の大変さや、岩井の歴史などの話を聞くことで、漁業に従事する方とふれあう時間をとるようにした。

第三日目の学級別活動では、東京で見ることが出来る場所を学級別に希望を取り、見学の計画を立てた。具体的には、お台場、日本科学未来館、警察博物館、造幣局、浅草といった場所を考えていた。

変更に関わる経緯と想定される課題

平成二十三年三月十一日に東日本大震災が発生した。一宮市教育委員会や校長会の方針として、この震災により、関東方面への修学旅行が難しいと判断され、予定されていた修学旅行を断念せざるを得なかった。そこで、今回は修学旅行先をも変更するきっかけとな

った震災について学ぶことが必要であると考え、防災意識を高める学習ができるように関西方面へ行くことが決定となり、目的地が変更となった。変更に伴い、想定される課題とその対応については、次のようである。

- ①生徒、保護者、地域の不安の解消
 - ・生徒、保護者、地域へ説明をした。
- ②事前準備不足
 - ・下見を再度やり直した。
 - ・旅行会社と綿密な連携をとった。
- ③熱中症対策
 - ・健康チェックや講習会を実施した。
 - ・熱中症対策グッズを使用した。
- ④関西へ行くことの価値付け
 - ・一日一日のテーマを設定した。

実際の修学旅行

行き先を変更したのが四月中旬であったため、修学旅行の準備・学習会を六月になって始めた。修学旅行実施日も六月から八月下旬となり、事前の指導を夏休み中に行わざるを得なくなるという難点が出てきた。したがって、一学期中に「震災から学ぶ」ことをテーマとし、計画を立て、学習することに集中した。充実した三日間にするため、次のように一日一日のテーマを掲げ、常に目的意識を持たせ、行動させた。

第一日目【震災を考える日】

一宮↓神戸(震災学習)↓大阪

第二日目【大阪の文化に親しむ日】

分勝手な行動をする場面が多くみられた。そのような行動に罪悪感もなく、平然と過ぎていき、自分たちで正しい判断のもと、いろいろなことを実行することができなかった。

そこで、まず集団の規律を高めることを第一に考え、学校の秩序が回復するように指導をした。個を認め、励まして伸ばす。そして、リーダー養成に努めることで、学年や学級でのリーダーの動きが活発となり、個々に適切な行動をとることができるよう努めた。

その指導の中の一つとして、修学旅行という学校行事を通して、集団の規範意識を高め、自律的な行動がとれることをねらいとした。

修学旅行に至るまでの活動

【一年生】

秋の校外学習(犬山リトルワールド)では、国際理解を図るために、事前学習に重点をおいて取り組んだ。事後には見てきたことを振り返り、まとめの学習には班毎で取り組んだ。

【二年生】

年度当初、二年生では、宿泊学習が予定されていなかった。しかし、集団の規律が守られていない本校の生徒の実態を鑑み、修学旅行に行く前に、二年生で宿泊学習を行った方がよいと考え、急きよ十月の校外学習を変更し、一泊の宿泊学習をすることになった。その宿泊学習(若狭湾)では、リーダー会による会の運営を中心に、班行動をとるときは、各自の分担を明確にした。やはり慣れない宿泊行事のなかで、集団生活のルールが確立さ

大阪市内

第三日目【学級の和を深める日】

大阪(学級別活動)↓一宮

事前や事後の学習を含み、一日毎実際に行った内容について紹介する。

事前学習

追究するテーマを個々に持ち、見学先に

いて調べた。

震災を考える日

阪神・淡路大震災に関する施設を見学した。説明を聞いたたり、見たり、ふれたりして追究を深めた。また、震災に遭われた方の講演会を聞いたり、質問をしたりするなど、防災への意識を高めた。

大阪の文化に親しむ日

大阪で活動することで、歴史や方言など大阪ならではの文化にふれた。

学級の和を深める日

学級別に活動場所を分け、いろいろなことを体験するなかで、学級の和を深めた。

事後学習

追究したことをまとめながら、自分の生き方を考えた。

事前学習

総合的な学習の時間を利用して、調べ学習を行った。六月から限られた時間の中で、十分な事前学習はなかなかできなかったが、個人でパソコンを使って、行き先の概要を調べ、

意識の高揚を図った。

また、よりよい修学旅行にするため、リーダー会のメンバーが持ち物、ルール等を話し合っており決めた。前年度の反省から、見学先でこれだけは守ろうというマナーの面や、持ち物について意見を出し合った。

夏休みの出校日にリーダー会が生徒の前に立ち、約束事を発表した。自分たちで決めた約束を守り、楽しい修学旅行にしようと、前向きに取り組もうという姿が見られた。

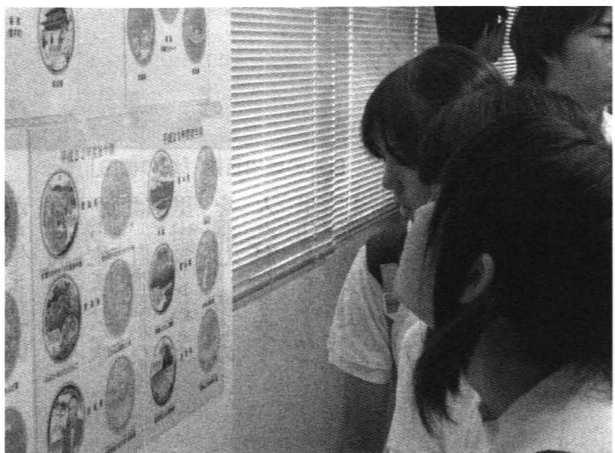
震災を考える日

第一日は「震災を考える日」とした。学校を出発し、全行程をバスで移動する。まずは神戸へ向かった。昼食を摂り、北野異人館を見学した。たいへん暑い日となったが、英国館や旧パナマ領事館などを見て回り、早くから外国とのつながりを持っていた神戸という町の歴史的特徴に触れることができた。また、観光に来ている外国の方の多さに驚いている生徒も多かった。

その後、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」へと移動した。阪神・淡路大震災が起こったときを再現した1・17シアターや復興に至るまでのまちと人をドラマ化した映画を観た。また、地震直後や復興過程の生活をメッセージとグラフィックで解説してあるコーナーや防災に関する展示品を見て回った。地震の怖さを改めて感じている生徒も多く、災害が起きた時の対応を自分でやれるようにしようと意思を強く持った。

- 一組 大阪造幣局↓パナソニックセンター
- 二組 大阪造幣局↓海洋博物館
- 三・四・五組 海遊館↓メルボルンハウス

どの見学地も班毎の活動を行った。班長を



学級で造幣局を見学

中心に見たり、聞いたりしたことをメモしながら見学した。班がいくつか合体し、小集団になることもあった。見学中に写真を撮りあったり、学級全体で記念写真を撮ったりするクラスもあった。学級毎に分かれて見学する時間は三時間と短い時間であったが、学級の和が深まった。また施設のルールを守ったり、時間を守って集合したりすることもしっかりとできた。

事後学習

修学旅行には、旅行後にまとめる資料を撮影するためにインスタントカメラを持たせた。カメラを配付する際に、思い出の写真だけでなく、レポート作りにも使用することを理解



震災に関する講演会

この日の夜、大阪のホテルに入り、夕食を済ませたあと、震災に関する講演会を催した。講師は旅行会社に依頼し、実際に阪神・淡路大震災に遭われた方を紹介してもらった。講演会では、リーダー会が司会進行を行い、震災当時の被害状況や、残された人々が、復興をめざして協力し合っているVTRを見ながら、分かりやすく話してもらった。生徒は、「震災についての知識が全然なかったのに気付かされた。」「自分は何ができるんだろう」と思った。東海地方も大きな地震が来ると言われているから、必要なものをバッグにつめておきたいと思った。」などという感想を持ち、震災に関することを考えるよい日となった。

大阪の文化に親しむ日

第二日は「大阪の文化に親しむ日」であ

させ、無駄な写真を減らすように指導した。まともは、新聞形式として一人一枚レポートをかくようにした。修学旅行全体を大まかにかくのではなく、震災学習に関すること、他にテーマを持った内容についてかくことを伝えてあった。震災学習については、講演会で聞いた内容をもとにレポート作りに取り組んだ。地震の被害の大きさをグラフィ化したり、地震が起きた周辺の被害状況を絵に描いてまとめたりした。また、地震に遭い、その恐ろしさが描かれている少女の手記を題材にしてまとめていくものもあった。

パナソニックセンター大阪をテーマに追究した生徒は、「最先端の家電製品を目にして、エコに優しい商品を考えていることに驚き、自分もリサイクルに取り組み、環境を守ることを前向きに考えていきたい。」という感想を述べた。大阪城をテーマにしていた生徒は、「バスに乗っているときから、石垣の大きさに驚いた。天守閣の中に展示されているものを見て、その時代の様子や武将の性格がよく分かり、歴史に興味がわいてきた。」とこれから社会科をがんばろうという姿が見られた。

一人ひとりが作成したレポートは教室の廊下側に掲示し、誰にでも見ることができるようにした。写真やイラストも掲載されていたため、生徒たちは思い出話を咲かせながら、友達とのレポートを見て回った。学校公開週間中も掲示をし、保護者の方にも見てもらい、たいへん好評であった。

る。大阪市内にある大阪城へ行き、天守閣の中に展示してある鎧や武器、伝統的な陶芸品や戦国時代の武将など、班毎に見て回った。歴史に興味を持ち、時間をかけて回る班もあった。時計係の指示のもと、集合時刻を全員が守り、次への目的地へと移動することができた。



大阪城を見学する生徒

午後は「なんばグランド花月」へ行き、古典芸能やお笑いの文化に親しんだ。学校を離れた場所で、友達同士で同じ空間にいるだけで特別な気持ちになった。この観劇は気持ちが開放的になり、あっと言う間に時間が過ぎた。また、大阪名物のたこ焼きを買い、昼食の弁当とともに嬉しそうに食べていた。一宮にはない方言や、笑いのつぼにはまり、大阪の楽しさを実感した。

学級の和を深める日

第三日は「学級の和を深める日」である。学級別学習は、事前に行きたい場所のアンケートを取り、意見をまとめ、学級の和が深まるように計画を立てた。行き先は次のようである。

おわりに

平成二十三年度の修学旅行は、急な変更にもかかわらず、全生徒が笑顔で修学旅行を終えた。一日一日にそれぞれテーマを持ち、臨んだ三日間であった。特に今回、震災学習を中心に取り組んだが、防災に対する意識が高まり、個々に変化が見られたことが、生徒のアンケートからうかがえた。

課題であった集団行動の意識も高まり、迷惑をかけず集合をしたり、時間を守ったりするなど、規律をしっかりと守ることができた。今回の修学旅行での活動を通して、学級や学年の和がますます深まった。また、生徒たちがリーダー会の提案した約束を意識し、学年や学級のリーダーの指示で適切な行動をとったりすることができ、楽しく自治的な修学旅行になったことに満足していた。集団としての組織力が高まり、よりよい学年になっていくことを確信した。

中学一年、二年の時に「関東方面へ行き、東京デイズニールランドへ行きたい。」と思っていた生徒が、急に「関西方面へ行きたい、少々落胆していた。しかし、この修学旅行に行ってみて、「修学旅行はみんなで行けたから楽しかった。行けることができたことに感謝している。最高の修学旅行だった。」と語ってくれたことが、なにより成功のしるしであると思う。